

2026 年(令和 8 年) 4 月入学

「大学院工学研究科 修士・博士一貫教育プログラム」

選抜要項

〔 プログラム A (修士 1 年次から適用する 5 年コース)
プログラム B (修士 2 年次から適用する 4 年コース) 〕

— 選 抜 日 程 —

	出願期間	試験日	選抜結果発表
夏季選抜	6 月 2 日(月) ～ 6 月 20 日(金)	7 月 3 日(木) <予備日 7 月 7 日(月)>	7 月 24 日(木)
冬季選抜	10 月 6 日(月) ～10 月 24 日(金)	11 月 17 日(月) <予備日 11 月 20 日(木)>	12 月 11 日(木)

豊田工業大学

1. 募集人員

若干名

2. 応募資格

プログラム A (修士 1 年次から適用する 5 年コース)	プログラム B (修士 2 年次から適用する 4 年コース)
2026(令和 8)年 4 月に本学修士課程に入学を希望する者で、下記の成績基準を満たしている者 (1) 夏季選抜志願者は 3 年次後期まで、冬季選抜志願者は 4 年次前期までの累積 GPA が 2.5 程度以上(数学・物理学等の基礎科目を重視)(注) (2) TOEIC®L&R 700 点程度以上	本学修士課程 1 年次に在学している者で、下記の成績基準を満たしている者 (1) 学部の累積 GPA が 2.5 程度以上(数学・物理学等の基礎科目を重視)(注) (2) TOEIC®L&R 700 点程度以上

(注) 他大学から本学修士課程に入学する(した)者については、成績表をもとに個別に資格審査を行いますので、「夏季選抜」志願者は 5 月 9 日(金)、「冬季選抜」志願者は 9 月 5 日(金)までに、必ず入学試験事務室までお問合せください。

3. プログラム適用者の選抜

- (1) 選抜方法 小論文および面接試験を実施します。
(2) 合否判定 小論文、面接試験の各結果ならびに出願書類の内容に基づいて総合的に判定します。

4. 選抜方法の概要

- (1) 小論文 特定の課題について論述してもらいます。受験票、筆記用具を持参してください。
(2) 面接試験 出願書類、小論文の内容および研究についての口頭発表(下記参照)に基づいて試問し、博士に必要とされる研究などの意欲、基礎学力、論理的思考力等について評価します。

面接試験の一部として、プログラム A は『学部研究』、プログラム B は『修士研究』の内容について発表してもらいます。

- 発表方法 パソコンを用いたプレゼンテーション
※ 試験日の前日までに発表用資料等を準備しておいてください。
- 発表時間 15 分
- 質疑応答 (最長)60 分

5. 選抜日程

	夏季選抜	冬季選抜
試験日	7 月 3 日(木) <予備日 7 月 7 日(月)> ①小論文 10:00~12:00 ②面接試験 試験日の午後	11 月 17 日(月) <予備日 11 月 20 日(木)> ①小論文 10:00~12:00 ②面接試験 試験日の午後
選抜結果発表	7 月 24 日(木) ※受験者全員に、選抜結果を通知します。	12 月 11 日(木)

(注) 志願者多数の場合は、予備日に選抜試験を実施することがあります。

6. 出願書類

◎ 出願書類の様式(電子データ)は、入学試験事務室まで問い合わせてください。

書類等の名称	様 式	注 意 事 項 等
(1) 修士・博士一貫教育プログラム志願書	【様式1】	必要事項を正確に入力してください。年齢は提出日現在の年齢を記載してください。写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した顔写真データを様式のサイズに合わせて貼り付けてください。
(2) 研究実績の概要	【様式2】	①プログラムAの志願者は「学部研究」の内容を、プログラムBの志願者は「修士研究」の内容を、2ページに要約して作成してください。なお、 <u>企業等での研究実績</u> のある者は、その研究内容の要約でも可とします。 ②研究業績(学術論文、研究報告、特許等)がある場合は、記載してください。 (注)学術論文等は別刷または写しを、口頭発表の場合は要旨または概要を添付してください。
(3) 指導教員の推薦書	【様式3】	博士後期課程を指導する予定の教員が作成したもの。
(4) 受験票・写真票	【様式4】	必要事項を入力し、所定欄に顔写真データ(【様式1】と同一のもの)を貼り付けてください。

7. 出願書類の提出

出願期間	夏季選抜	6月2日(月)～6月20日(金) <消印有効>
	冬季選抜	10月6日(月)～10月24日(金) <消印有効>
提出方法	①持参 《受付時間》月～金曜日(土、日、祝日を除く) 9:00～17:00 ②郵送 上記の出願期間内に「簡易書留」で送付してください。	
提出先	〒468-8511 名古屋市天白区久方2-12-1 豊田工業大学 入学試験事務室	

8. 受験票の交付

受験票は出願書類の確認ができしだい交付します。交付時にはメールで連絡します。
下記期日までに交付の連絡がない場合は、入学試験事務室までお問い合わせください。

- ・夏季選抜 6月30日(月)
- ・冬季選抜 11月10日(月)

9. 奨学金等の給付(学生納付金の状況)

学問と研究に集中して学生生活を過ごせるよう、次のような経済支援を行います。

	プログラム A (修士 1 年次から適用する 5 年コース)	プログラム B (修士 2 年次から適用する 4 年コース)
修士課程	(1) 入学金 全額免除(26 万円)	(1) 入学金 修士入学時に自己負担で納付済
	(2) 授業料 自己負担で納付(75 万円/年)	《プログラム A に同じ》
	(3) キャンパス整備費・教育充実費 自己負担で納付(10 万円/年)	《プログラム A に同じ》
	(4) 生活費 2 年間給付(8 万円/月)	(4) 生活費 1 年間給付(2 年次 8 万円/月)
博士後期課程	(1) 入学金 不要	《プログラム A に同じ》
	(2) 授業料 全額給付(70 万円/年を 3 年間給付)	
	(3) 生活費 3 年間給付(15 万円/月) (特に優秀と認められる場合には、 20 万円/月を給付)	

10. その他の経済支援制度

次の経済支援制度を設け、希望者については選考のうえ採用し、手当を支給しています。

(1) ティーチング・アシスタント(T. A.) 制度	学部・修士学生の演習・実験等の指導補助
(2) リサーチ・アシスタント(R. A.) 制度	3 年を超えて博士後期課程に在籍する場合、リサーチ・アシスタント制度の適格者として認められた者は、最長 2 年間にわたり「学生自身が取り組む研究活動」などに手当を支給します。

11. 学生寮

良好な勉学環境の提供と経済援助の一環として学生寮(国際交流ハウス：Ti-House)を設置しています。学生寮への入寮を希望する場合、出願書類【様式 1】の「入寮を希望する」に■を付けてください。

(1) 修士課程	希望者は、Ti-House に空室がある場合は入寮することが可能です。
(2) 博士後期課程	プログラム対象者は、Ti-House へ優先的に入寮することが可能です。

《寮の概要》

- ◎ 個室(洋室・19.8 m²) ※シングルルーム (1 名のみ居住可)
- ◎ 居室設備：机、椅子、ハンガーラック、ベッド、エアコン、洗面台、トイレ、シャワー、インターネット接続端子
- ◎ 主な共用設備：キッチン、コインランドリー、交流ラウンジ、駐輪場(駐車場は大学構内にあり)
- ◎ 寮費：2026 年 3 月分まで 31,000 円/月、2026 年 4 月分以降 35,000 円/月
(ガス・水道代・インターネット利用料込み)

(※1) 上記寮費は在学中に変更することがあります。

(※2) 電気料金については個別契約となります。(個人による実費支払いが必要)

12. プログラムの趣旨

- ・修士・博士の5年間あるいは4年間の一貫した教育プログラムを実施することにより、先端研究を推進する能力を育み、産業界や学界の第一線で活躍できる次代のリーダーを育成することをめざします。
- ・教育内容の特徴として、修了後の進路も見据えて、次の点を重視した教育を行います。
 - ①研究能力を磨くとともに、社会人基礎力を大きく伸ばします。
(研究の立案・企画力、論理的思考力・説明能力、プレゼン能力、ディスカッション能力、リーダーシップ、異分野への対応能力等)
 - ②長期・複数回にわたるインターンシップの実施を可能とし、産業界との接点を多く設けます。

13. 現行制度との関係

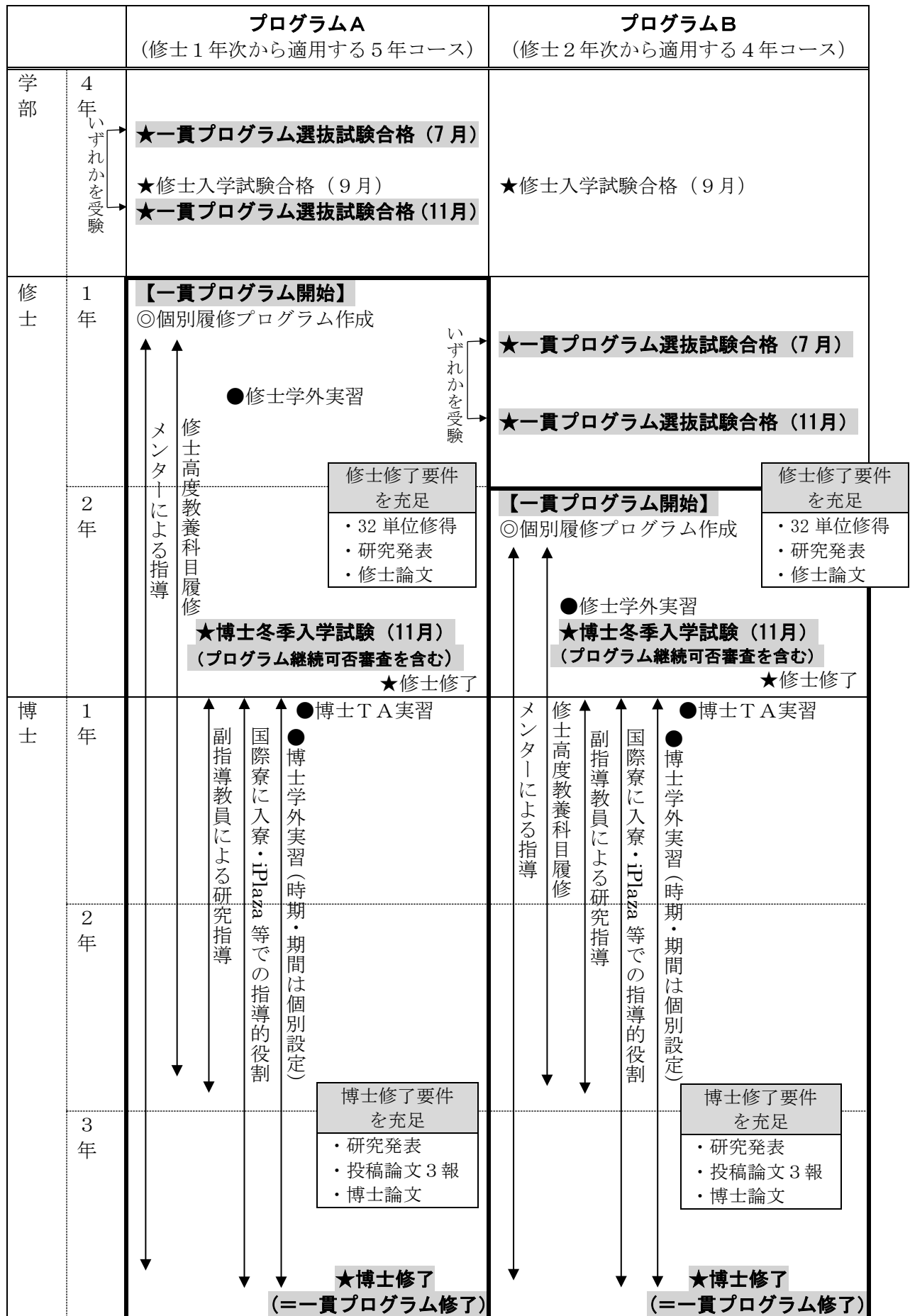
- ・現状の修士課程、博士後期課程の枠組みを維持します。修士・博士を一貫して効果的な教育を行います。全体の修業期間を短縮するものではありません。(修士2年+博士3年)
- ・修士と博士の修了要件をそれぞれ充足し、修士と博士の学位をそれぞれ授与します。
- ・プログラムの適用は、博士後期課程への入学を保証するものではなく、別途、博士後期課程の入学試験(原則として「冬季選抜」)を受験し、合格する必要があります。

14. プログラムの概要

修士・博士の各課程の枠組みの中で、教育内容の一部拡大や柔軟化により、内容の充実を図ります。

(1)個別履修プログラムの拡充	プログラム開始時に5年間あるいは4年間のプログラムを立案する。博士進学時に、必要に応じてプログラムの見直しを行う。
(2)副指導教員制度の拡充	副指導教員を3名選任する。博士1～2年の間に、①自身の研究の進捗状況報告、②与えられた課題の報告、をもとに計6回(3名×2回)のディスカッションを副指導教員と行い、研究の視野を広げる。
(3)メンター制度の拡充	メンター制度を修士まで拡充させて、社会人基礎力等を養成する。プログラム期間中にメンターを交替し、多様な指導を受ける。
(4)修士高度教養科目の履修拡大	修士1・2年次、および博士1・2年次の4年間にわたり修士科目の「科学・技術と人間・社会」を聴講する。学生は聴講前に自学自習し、聴講後にレポートの作成や指導教員とディベートすることにより、内容の充実を図る。また、博士課程在学時に、講師選考プロセスへ参画する。
(5)国際交流ハウス(Ti-House)への入寮	外国人留学生等との交流を深めるため、博士課程入学後に国際交流ハウス(Ti-House)へ優先的に入寮することができる。また、博士2年次まで本学の国際プログラム(Ti-House、iPlazaの行事等)で指導的役割を担い、運営に寄与する。
(6)修士学外実習	「修士学外実習」(国内または海外)への参加を推奨する。
(7)博士学外実習	合計3か月～1年にわたり実施する(6か月を目安とする)。時期、回数(集中/分割)は個々の状況に応じて柔軟に対応する。
(8)経済支援制度	独自の奨学金を用意し、入学金、授業料、生活費の支援を行う。詳細は、『学生便覧』の「奨学金」掲載ページを参照のこと。

15. プログラムの流れ



☆お問い合わせおよび本学の見学を希望される場合は、
お気軽にご連絡ください。

豊田工業大学大学院 入学試験事務室
〒468 - 8511 名古屋市天白区久方 2-12-1
TEL : (052)809-1716
E-mail : nyushi@toyota-ti.ac.jp